

平成 2 4 年 度 同 好 会 事 業 報 告

道 徳 同 好 会 世 話 係 名 畠 山 信 重 会 長 名 塚 田 研

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参 加 人 員
5 月 1 日	発 足 会 、 活 動 計 画	1 3
6 月 3 日	長 野 県 道 徳 学 会 役 員 会 ①	2
8 月 1 日	夏 季 研 修 会	9
1 0 月 3 日	公 開 授 業	1 0
10月31日～ 11月2日	道 徳 教 育 指 導 者 研 修	1
1 1 月 2 日	長 野 県 道 徳 学 会 松 本 大 会	5
1 1 月 2 日	長 野 県 道 徳 学 会 役 員 会 ②	2
1 月 2 7 日	長 野 県 道 徳 学 会 役 員 会 ③	(2)
2 月 2 2 日	ま と め の 会	(1 3)

私たち上高井道徳同好会は現在十五名で構成され、活動しています。今年度は主に十月に行われた授業公開に向けて活動してきました。ここではその様子をお伝えします。

さて、授業者は、私、日野小学校の塚田が引き受ける事になりました。私は普段の道徳の授業はもっぱら『わたしたちの道』を使っていますが、今回はNHKの道徳ドキュメントから「あやちゃんの卒業式」という教材を選択して実践してみる事にしました。およその内容…（大阪市のある小学校で、卒業式が行われました。卒業生の先頭にかかげられているのは、女の子の写真。二年前になくなった、梶原文乃（かじわら・あやの）さん。“あやちゃん”とよばれていました。あやちゃんと同級生たちの、短くも深い、心の交流をたどります。NHK for school のページより）

夏休みの研修では指導案の検討を行いました。たたき台はNHKのページに示されている指導案です。まず、みんなで番組を見ました。心に迫るドキュメントで、すば

らしい内容だという感想などが出されました。また、番組には、いくつかの道徳的価値が含まれていて、ねらいを明確してやっていかないといけないという意見が出されました。確かに番組の中には人それぞれに感動するであろう場面がたくさんありました。それをねらう価値二―（三）に絞って検討が行われました。講師の畠山先生からは授業の切りこみを鋭くしていく事の大切さを教えて頂きました。初発問・中心発問「青山くんたちが亡くなったあやちゃんと一緒に卒業式を迎えたいと思ったのは、どんな気持ちだったからでしょう」が見えてきました。

十月、実際に授業が行われました。子どもたちも真剣な表情で見入っています。少し涙を浮かべる子もいます。話し合いではあやちゃんと級友の友情について「みんなで一緒に卒業したいから。大切な友だちだから。」「あやちゃんが亡くなっても、ずっと心の中に生き続けているから。」「ぼくも、いつまでも心に残る友だちを作ろうと思いました。」などの意見がたくさん出されました。

授業が行われた後、先生方にたくさんのご意見を頂きました。

「中心発問についてみんなで交流する場面で、どんな気持ちだったかを整理して板書すると分かりやすかったかと思います。（あやちゃんの人となりに思いを寄せる意見・あやちゃんをどうとらえているかを自分たちで振り返る意見 など。）」

「中心発問について子どもたちは単発的に発表する形になってしまっていたので、先生が「もう少し詳しく」「どこからそう思ったの」「自分でもそういう経験があった？」等、問い返し、子ども同士の話し合いにつなげていく。」

「ビデオのセリフを読み物資料として配り、信頼・友情の大切さを具体的にとらえる展開もほしかったと思う。発言で「親友っていいな」とか「いつまでも心に残る友だちを作りたい」の中身（道徳的価値を伴った）が、より鮮明になり価値の交流ができたと思う。」などです。

その後、私は視放研番組研究員会に参加してきました。番組研究委員会は、NHKの教育番組について、現場の意見をききながら内容を更に高めていくということに協力する組織だそうです。そこで、番組の製作サイドにいる方とお話しする機会がありました。その方からたくさんのお話を聞きました。主な内容としては「番組は、全国の子どもたちの様子を聞きながら作っている。内容にも多様な価値を（あえて）持たせてある。それを先生方が必要に応じて使ってもらいたい。番組としては十五分で完結するように作っているが、全部を使わないなどの使い方も先生方の自由でOKです。道徳は（年が変わっても）大きく内容が変わらないので、一年分を録画してブルーレ

イディスクなどに落としておく使いやすい。」などです。参考にして、番組も授業の一つの選択肢としていけるといいと思いました。

（会長 塚田 研）